



アオモリトドマツ林

アオモリトドマツはマツ科モミ属の高木です。別名をオオシラビソと言い、蔵王では樹氷のできる木として有名です。亜高山帯を代表する樹種の一つで、尾瀬周辺に行くとよく似たシラビソと混生しますし、吾妻山ではコメツガと混生します。



コメツガ林

コメツガはマツ科ツガ属の高木です。蔵王山の山形県側ではアオモリトドマツと住み分けていて、吾妻山のように混生することはありません。中央高原の鳥兜山の東はアオモリトドマツ。西と北はコメツガが自生しています。



アサギマダラの卵と幼虫

アサギマダラは以前マダラチョウ科に分類されていましたが、最近マダラチョウ科を分けず、タテハチョウ科とするようです。昨年蔵王での繁殖が確認されましたが、今年は西蔵王で幼虫が見つかりました。写真は左が蔵王唐松コースのガガイモ科のイケマに付いた卵2個と1齢幼虫で、右は西蔵王出壺周辺で、同じガガイモ科のシロバナカモメヅルに付いていた幼虫です。成虫になると避暑のため高い所に登り、その後ヨツバヒヨドリなどの蜜を求めて下り、その後、南へ渡ります。



ヨツバヒヨドリとアサギマダラ

文責 志鎌 節郎

# 平成27年度 野外観察講習会



蔵王ドッコ沼

**2015.7.31 山形市理科教育センター**



ザオウアザミ

ザオウアザミはキク科アザミ属の植物で蔵王の固有種です。1999年に門田裕一氏によって名付けられた新種のアザミです。個体数の最も多い所は地蔵岳周辺の亜高山帯で、笹谷峠から不忘山まで見られます。西はドッコ沼まで確認しています。



タケシマラン

タケシマランはユリ科タケシマラン属の草本です。ブナ林の中に多く見られます。蔵王中央高原では、葉が茎を抱き、実が楕円形になり少し大きくなるオオバタケシマランも見られます。今回は両方が見られるかもしれませんがどうでしょう。



ツバメオモト

ツバメオモトはユリ科ツバメオモト属の草本です。実の色が青く美しいので良く目立ちます。一説にはツバメオモトのツバメは、この実の紺色を燕の頭の色に見立てたための名前と言われています。花も白く目立ちます。



ツルアリドウシの花と実

ツルアリドウシはアカネ科ツルアリドウシ属の常緑性の蔓性草本です。面白い事に白い花が2つ咲きますが、実は1個です。実には花の跡が2つあり目玉の様に見えます。花が咲いてから実が熟すまで約1年かかるので同時に両方を見る事も出来ます。これもブナ林で良く見られます。



ブナ林

蔵王の中央高原ではブナ林が広く見られます。ちょうどこの辺から上部は亜高山帯の針葉樹林でアオモリトドマツの林になり、樹氷地帯となります。ここから下は温泉付近までブナ帯が続き豊富な動植物に恵まれます。しかしこの辺のブナは戦中戦後にかけて炭焼きが行われたため2次林です。



ミヤマタニタデ

ミヤマタニタデはアカバナ科ミズタマソウ属の草本です。日本全国の深山で見られますが、蔵王中央高原ではウツボ沼周辺で見られます。あまり目立たない植物で見逃してしまいがちですが、雨の降っているような日には、実に雨粒が溜まるので良く目立つ様になります。



ミヤマカラマツ

ミヤマカラマツはキンポウゲ科カラマツソウ属の草本です。基本的には白い花とされていますが、蕾の頃萼片が赤紫になるものも見られ、写真の様に見えます。花弁は無く萼片も早い時期に脱落します。雄蕊が花弁の様に見え、とても繊細な感じの花です。



シロバナトウウチソウ

シロバナトウウチソウはバラ科ワレモコウ属の草本です。名前の通り白い花が原則ですが、写真の様に萼片が赤紫色で白くない物が蔵王山では普通に見られます。ナンブトウウチソウと勘違いする人も居ますが、ナンブトウウチソウは雄蕊が赤紫色になります。